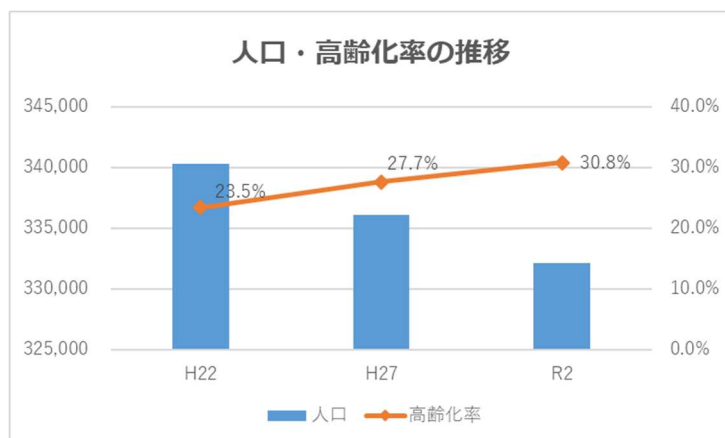


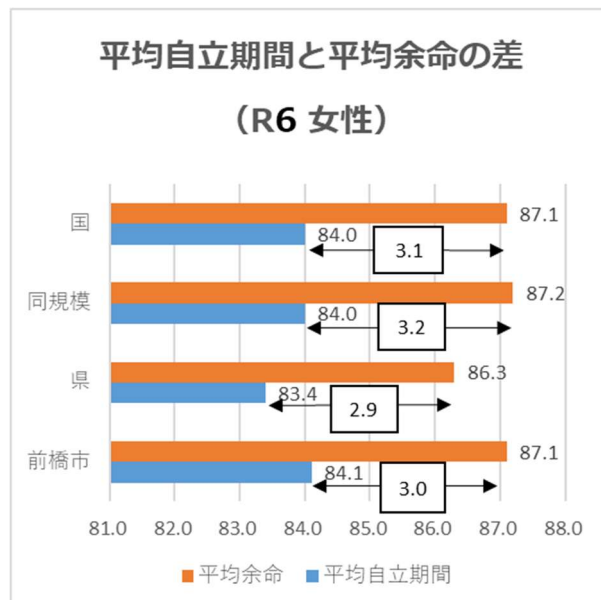
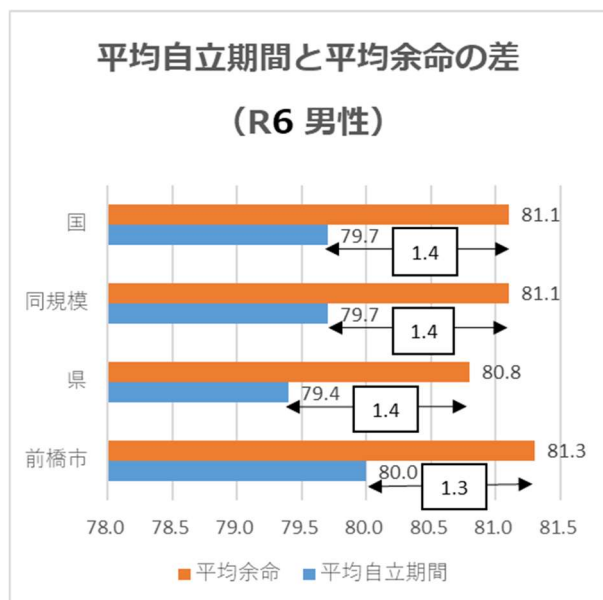
前橋市の後期高齢者の健康課題（R6 年度 KDB データ等より）

（１）人口・高齢化率



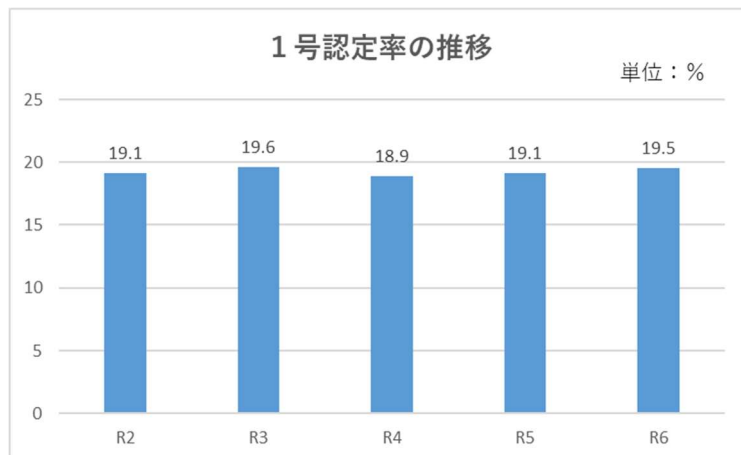
人口は年々減少しているが、高齢化率（65 歳以上の人口割合）は増加。
高齢化率が 21%を超える社会を「超高齢社会」といい、前橋市は H22 時点で既に超高齢社会に突入している。

（２）平均自立期間と平均余命の差



前橋市の平均余命と平均自立期間の差をみると、男性 1.3 歳、女性 3.0 歳である。
女性は男性より長生きだが、支援や介護が必要な期間も長い。

（３）要介護認定率



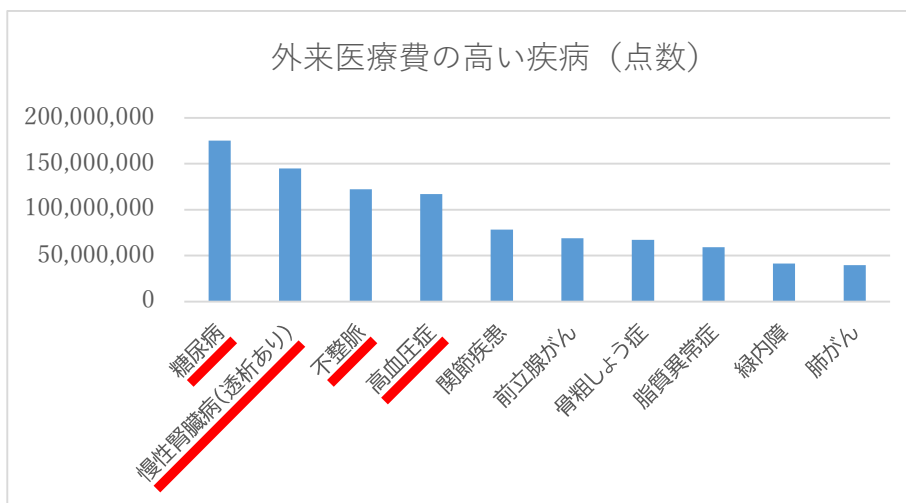
過去 5 年間横ばいの傾向。

(4) 死因

R6	がん	心臓病	脳疾患	糖尿病	腎不全	自殺
前橋市	45.0%	32.5%	14.1%	1.8%	3.5%	3.0%
県	46.1%	30.4%	14.6%	2.2%	4.0%	2.6%
同規模	49.3%	29.3%	12.9%	2.0%	3.6%	2.8%
国	48.6%	29.3%	13.5%	2.0%	3.9%	2.7%

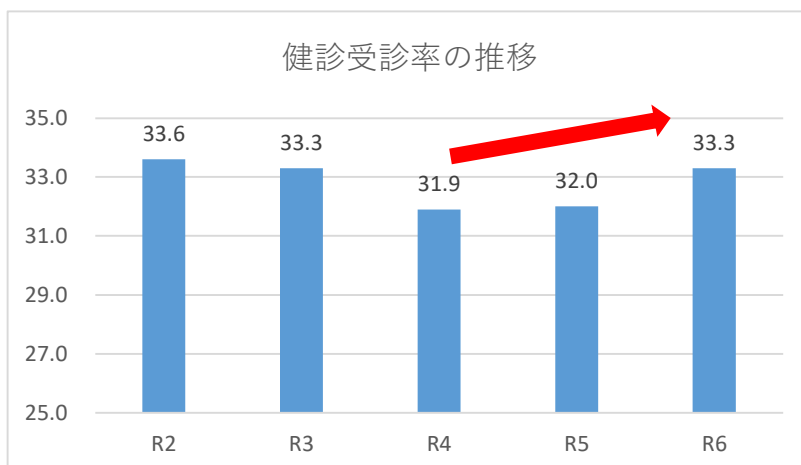
最も割合が高いのは「がん」45.0%、次いで「心臓病」32.5%、「脳疾患」14.1%の順となっている。
この順は過去5年間変化しておらず、心臓病が占める割合は年々増加している。

(5) 医療費：外来医療費の高い疾病



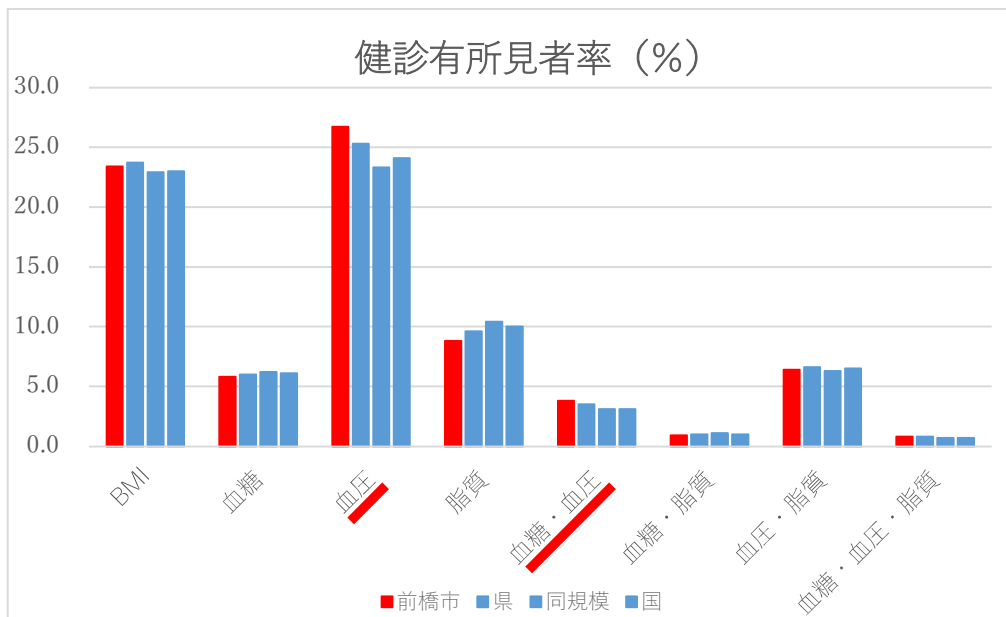
上位4疾患は、「糖尿病」「慢性腎臓病（透析あり）」「不整脈」「高血圧」であり、
糖尿病の外来医療費は年々増加している。

(6) 健診受診率の推移



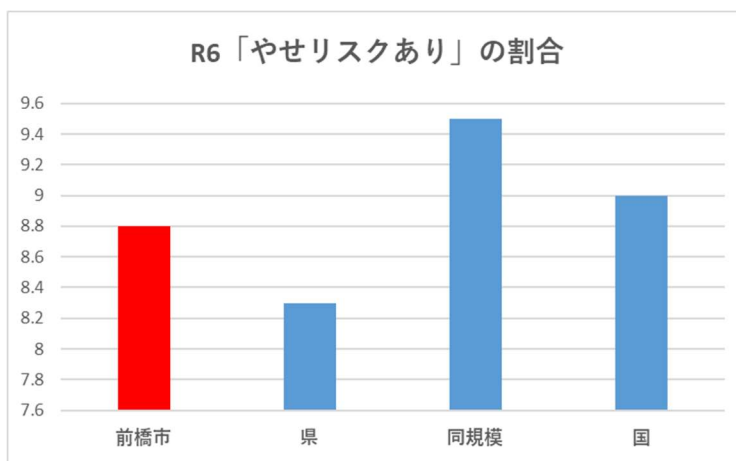
新型コロナウイルス感染症流行による受診控えにより、R2～R4 まで健診受診率も減少したが、R6 年度は前年度比+1.3%となり、コロナ流行以前の水準まで戻りつつある。

(7) 健診有所見率



「血圧」「血糖・血圧」は県・同規模・国と比較しても高く、優先すべき健康課題と言える。

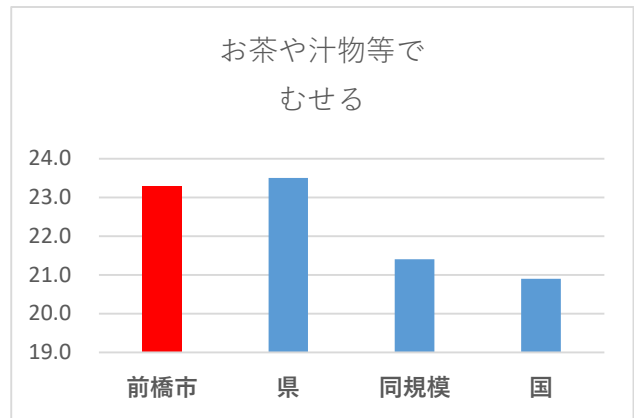
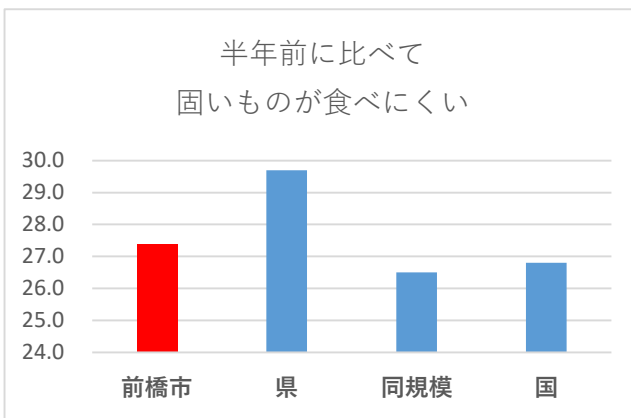
(8) やせリスク



高齢者の低栄養は、筋力や体力の低下からサルコペニアやフレイルを招き、転倒・要介護のリスクが高まる。

前橋市の「やせリスクあり」の割合は、国や同規模より低いものの、県よりも高い傾向にある。

(9) 口腔機能



口腔機能の低下はフレイルや低栄養を招き、要介護リスクが高まる。

国や同規模自治体と比較し、咀嚼や嚥下のしにくさを感じている人の割合が高くなっている。